

【3-2】日常生活支え合い実践事業

小規模多機能ホームを活用した居場所づくり (おおい町)

基礎情報

実施地域	おおい町全域（4事業所）
実施主体	社会福祉法人 おおい町社会福祉協議会
所在地	おおい町本郷82-14
代表者	会長 荒木茂夫



平成23年度の事業概要

小規模多機能ホームを町内4か所に開設し、地域住民が気軽に立ち寄れ、サロンや生きがいづくり等地域のコミュニティ活動の場となるよう「地域とのかかわり」（地域の環境整備や交流イベント、サロン等）事業を展開し住民の居場所づくりを行う。
机、椅子、テレビ、テント等の備品の購入。

現在の活動状況

地域の環境整備や交流イベント、サロン事業等の地域とのかかわり事業をテント等の備品を活用し引き続き積極的に実施している。

- ・平成24年3月より新規事業として「コミュニティルーム」を各ホームに開設し、地域のみなさんのたまり場としてコーヒーやお茶等を飲みながらの会話や利用者と気軽に余暇を過ごせる事業を継続している。
- ・今夏には、障害のある方の交流の場や地域の方々の交流の機会づくりのため「サロンやレクリエーション」を開催。流しソーメンやバーベキュー、屋内で魚釣りや輪投げ等のゲーム等行っている。
- ・ホームの利用者さんは土に親しんできた方が多いため、耕運機を活用し敷地周辺に畑をつくり野菜を育てている。

事業の実績、成果

地域とのつながりを重視した事業を展開したことにより、利用者さんからは「近所の家に遊びに行くみたいだ」とか「一日気楽に過ごせる」という声がかかれた。

また、地域からは「ホームができて地域が元気になった」との声もあり、このようなことから利用者さんには「なじみの人たち」と生活できる「第2の我が家」として、地域にはコミュニティの場として認められつつある。

工夫した点

職員の町内会行事への参加やホーム周辺の草刈、花壇の設置、広報紙によるホームの情報発信等地域との関わりを重視した。
ホームの運営推進会議での地区委員の意見を重視し事業運営に反映した。



課題

交流イベントを通じた交流は活発化しているが、日常生活を通じた交流をいかに継続していくかが課題

事業の財源

平成23年度地域支え合い体制づくり事業補助金にて備品購入。
購入備品の維持管理については町社会福祉協議会の自主財源にて費用を確保。

今後の目標

認知症になられてもその人らしい暮らしが住み慣れた地域で継続できるように、今後もホームを地域のコミュニティの拠点として福祉関係者にこだわらず、地域のみなさんやボランティアさん等の「ふれあい」を通し、日常的に気軽に交流できる場をコンセプトに運営を継続していく。

職員からのメッセージ



この事業や活動を通じて、地域の方々の協力の大切さを実感しました。
職員だけではできなかった取組みでも、地域の協力を得ることで様々な可能性が広がりました。
この関係を継続して今後もよりよいサービスの提供に努めていきます。